

第9回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会（委員長 小林俊郎）の審査を経て平成19年2月26日（月）に開催された第80回理事会において慎重審議の結果、以下の2名の授賞を決定、社団法人軽金属学会第112回春期大会第1日目の5月11日（金）に富山国際会議場において表彰式を挙行了た。

受賞者 伊藤房男 君 三協立山アルミ株式会社 企画部 参事 昭和22年2月9日生（60才）

受賞理由



伊藤房男君は、旧立山アルミニウム工業株式会社（2006年6月に合併し三協立山アルミ株式会社となる）に入社以来、アルミニウム建材の表面処理と押出技術に携わってきた。その間、実務業務として表面処理の電解着色の無人化や自動化等を実施した。また、1980年代全般まではアルミニウム表面処理の技術分野が主体であったが、1980年代後半からは押出技術、加工技術に取り組み担当部署の技術の拡大に努めた。その間、官学の助力を受けながら技術レベルの向上と部下の指導育成に尽力した。

一方、1987年から2004年の間、軽金属学会北陸支部の幹事として支部運営に積極的に参加し、特に2度の全国大会の実行委員として支部活動の活性化に貢献した。その功績で2001年には北陸支部功績賞が授与されている。

以上のように、同君は永年にわたり軽金属学会の活動に参画し、その地道な努力は本学会の発展に極めて大切な功績と認め、ここに第9回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 洲崎 博 君 ワシアルミ株式会社 技術部 次長 昭和24年9月5日生（57才）

受賞理由



洲崎 博君は、ワシアルミ株式会社に入社以来、35年間一貫してさまざまな製法・構造のアルミニウムホイールの開発と設計業務、またアルミニウム合金製織機用ビーム（縦糸用糸巻き）の設計と性能評価に関する業務に尽力され多大の成果を挙げる一方、北陸地域を中心とした軽金属産業の発展に現在も大きく貢献している。さらに、本学会正会員としても32年の長きにわたり本学会の活動に積極的に参加するとともに、北陸センターおよび北陸支部幹事として支部の建設的な運営に15年間貢献する傍ら、北陸支部での春・秋の定期講演会に積極的に参加し、支部講演会での企業発表における若手技術者の育成に心血を注ぐとともに、過去2回の全国大会の現地実行委員会委員としても尽力してきた。さらに現在は、2007年春に富山で開催される第112回春期全国大会の現地実行委員会委員としても献身的な活動を継続している。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第9回軽金属学会功労賞を贈る。